

報告

# 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」と それに基づく初年次キャリア教育の実践

田中徳一<sup>1)</sup> 成行義文<sup>2)</sup> 平井松午<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 徳島大学就職支援センター・キャリア教育推進室 <sup>2)</sup> 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部

<sup>3)</sup> 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

(キーワード：Web 版ポートフォリオ，キャリアデザイン伝承システム，4年一貫教育，就業力アンケート)

## Career education program of The University of Tokushima and its implementation and assessment for first-year students in the 2011 academic year

Tokuichi TANAKA<sup>1)</sup> Yoshifumi NARIYUKI<sup>2)</sup> Shogo HIRAI<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Career Support Center, The University of Tokushima

<sup>2)</sup> Institute of Technology and Sciences, The University of Tokushima

<sup>3)</sup> Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima

(Key words: Web version of career learning portfolio, system to pass down career design technique from senior to junior students, four years consistent education, student self-evaluation of necessary basic ability as a member of society)

### 1. はじめに

近年の産業構造・就業構造の変化にともない，大学卒業者に対し，専門能力だけでなく実行力やコミュニケーション力など，さまざまな社会人としての基礎的な力が要求されている。また，厳しい就職環境にもかかわらず，就業観の未熟さから目的意識の希薄な学生の増加とともに，早期離職者の割合も増えている。

このような背景のもとに，文部科学省では2010年2月に大学設置基準を改正し，教育内外を通じた「社会的・職業的自立に向けた指導等（キャリアガイダンス）」を制度化した。

徳島大学総合科学部および工学部では新基準に対応するために，学生の職業観を培い，社会人として必要な資質・能力を育成することを目的としたキャリア教育の共同プログラム「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム<sup>1)</sup>」（以下，巣立ちプログラム）を策定した（図1参照）。

2010年4月には文部科学省は就業力に主眼を置いて，全学的に教育改革を行おうとする意欲を持つ大学を支援することを目的に，「大学生の就業力育成支援事業」<sup>2)</sup>の募集を開始した。

これに対し，441大学からの申請があり，審査は，学生の就業力の向上に関して大学の置かれて

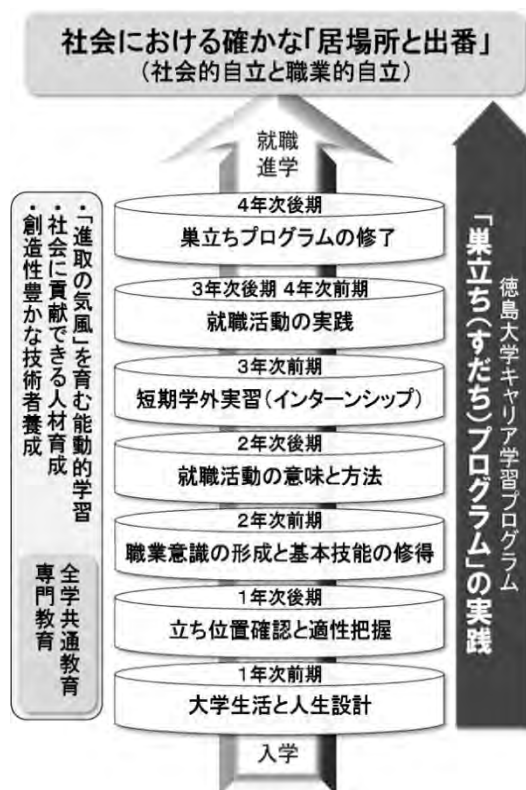


図1 巣立ちプログラム

いる現状・課題等が的確に把握されているかを基に行われた。その結果，徳島大学の「巣立ちプログラム」を含む180大学の取組みが採択<sup>3)</sup>され，本学でもこれを契機として，2011年度より初年次

学生を対象に本格的な4年一貫のキャリア教育が開始されている。

本報告では、文科省の「大学生の就業力育成支援事業」の要旨、本学の「巣立ちプログラム」の取り組み内容について述べるとともに、本プログラムに基づいて2011年度から実施されている初年次キャリア教育科目の授業展開、アンケート評価等について報告する。

## 2. 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」の概要

現在の厳しい雇用情勢の中で、新卒学生の就職率の向上や、学生の資質・能力に対する社会からの要請とともに、学生の多様化に伴う卒業後の職業生活等への移行支援の必要性も高まっている。

本事業は、文科省が就業力の育成に主眼を置いて、全学的に教育改革を行おうとする意欲を持つ大学を支援するものである。

その内容は、入学から卒業までの間を通した全学的かつ体系的な指導を行い、次の①から④のプロセスを繰り返し、その社会的・職業的自立が図られるよう、大学独自の取組が要求されている。

- ① 初年次教育等を通して、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活（ワークライフバランス含む）について基本的な展望を持つ。
- ② ①と併せて、自らの個性・能力を把握しつつ、将来の進路を自らの責任で選べるよう、主体的に大学生活を組み立て、適切な授業科目や講座を選択し、計画的に学修を進める。大学は、その大学生活や学修が有効なものになるとともに、体系的な履修計画の下に学修が行われるよう、指導・相談・助言を行う。
- ③ ①、②を踏まえ、座学によって得られる専門的知識や技術が、企業等の第一線でどのように活用されるか実地に学ぶなど、目的意識をもって学修を継続・深化させ、その結果、大学卒業後に役立つ社会的に必要な能力や実践的な能力を獲得する。
- ④ 全体を通して、大学生活を通じて修得した様々な知識や技術が、自分の中で有機的に統合され、大学を卒業した職業人として求めら

れる最低限の資質能力が形成されているかを自ら確認する。

## 3. 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の概要

### 3.1. 取組の背景

近年、本学における大学生の就業先（業種・職種）は多様化する傾向にあり、『学生の学習に関する実態調査報告書』<sup>4)</sup>によれば、総合科学部の文系で51%、理系で39%、また工学部（7学科）でも33～42%の学生が将来に不安を感じている。これは学生が将来に対する明確な職業観やキャリアデザインが描けていないこと、すなわち、社会に出たときの自らの「居場所と出番」がイメージできていないためでもある。

そうした学生は就職活動へのモチベーションや就業先に対する満足度が低く、中には早期転職するケースもみられる。学生が将来、社会における自らの確かな「居場所と出番」を獲得するためには、大学において「就業力」、すなわち本学が目指す「自らの適性・能力に合った希望する職に就き、業務を自律的に遂行し続ける力」を育成する必要がある。

### 3.2. 本取組の内容・構成

本取組では、「巣立ちプログラム」の下に、総合科学部・工学部の学生が入学時から卒業時に至るキャリア学習プログラムを実践する。

本取組の目標は、「Web版ポートフォリオの活用」、「キャリアデザイン伝承システムの実践」ならびに「就業力評価アンケートによる事後評価」などの諸取組を通じて、学生の主体的な学習を促し、社会的・職業的自立に向けた就業力を育成することにある。

こうした目標実現のために、学生は大学における自らの学習目標やライフプランの実現に向けた履修計画を立てる必要がある。Web版ポートフォリオは、そうした学生の自律的な学習活動や社会活動、キャリアデザインを支援する取組である。

キャリアデザイン伝承システムは、社会に巣立つ直前の4年生が、ポートフォリオやインターシップ、就職活動等にもとづいて後輩学生に自ら

の学習過程や体験を伝える取組である。こうした一連の取組結果については、就業力評価アンケート等で検証する。

また、本取組は、従来の就職支援室を発展的に改組して新たに設置した全学組織の「就職支援センター」(2010年11月設置)主導の下に、学生の自主的な就職支援組織や同窓会組織、地元の企業・自治体等とも連携して実施し、就業力検証シンポジウムや外部評価を踏まえて、不断の見直し・改善につなげる。

#### 4. 4年一貫のキャリア教育体系

本取組の目的は、徳島大学における5学部(総合科学、医学、歯学、薬学、工学)のうち、幅広い職業人養成に携わる総合科学部ならびに工学部を対象として、4年一貫のキャリア教育体系となる「巣立ちプログラムのカリキュラム」(表1)を全学組織である「就職支援センター」主導の下に実践し、学生の就業力向上を図ることにある。

「巣立ちプログラムカリキュラム」における授業科目(キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ、短期インターンシップおよびキャリアプランⅠ～Ⅲ)は、総合科学部・工学部においてそれぞれ同じ取組内容からなる学部共通科目とし、1年次開講の必修4単位と、2～4年次開講の選択必修5単位中1単位、計5単位が卒業要件に含まれる。

初年次学生に対しては、大学教育とキャリアデザイン形成の観点から、自らの職業観・勤労観についての動機づけを目的に、1年前期の「キャリアプラン入門Ⅰ」(必修)において、初年次講座を開講する。同科目では、従来の就職支援室が1年生を対象に実施してきたキャリアデザイン形成講座も取り込み、キャリア教育の充実を図る。後期の「キャリアプラン入門Ⅱ」(必修)では、自らの適性を把握するとともに、ライフプラン(人生設計)に対する基本的な視点・展望を持たせる。

2年次前期の「キャリアプランⅠ」では、業種別に県内外から招聘した外部講師が業界動向、専門知識並びに求められる人物像について解説するジョブリサーチ講座やワークショップを通じて、職業人に求められるコミュニケーション力・プレゼンテーション力・日本語力のさらなるブラッ

表1 巣立ちプログラムのカリキュラム

学年	プログラム取組内容	総合科学部・工学部 (学部共通科目)
		卒業要件 5単位以上
卒業後	<b>社会における「居場所と出番」</b>	/
	・卒業生へのプログラム評価アンケート ・ホームカミングデイへの参加	
4年後期	<b>巣立ち(すだち)プログラムの修了</b>	キャリアプランⅢ (選択)1単位
	・就職活動体験レポート作成 ・web版キャリア学習ポートフォリオの完成 ・後輩学生への学習履歴・体験の伝承	
3年後期 4年前期	<b>就職活動の実践</b>	正課科目は 組まれていない
	・各種の就職ガイダンス・セミナーへの参加 ・企業合同説明会等への参加	
3年前期	<b>短期学外実習(インターンシップ)</b>	短期インターンシップ (選択)2単位
	・事前研修(マナー、基本技能等) ・受入企業・機関による講演 ・学外実習(主に8～9月) ・事後研修(実習報告と企業の評価報告)	
2年後期	<b>就職活動の意味と方法</b>	キャリアプランⅡ (選択)1単位
	・社会体験・職場見学の実践 ・上級学生の講演・体験談 ・講演者・卒業生等とのワークショップ	
2年前期	<b>職業意識の形成と基本技能の修得</b>	キャリアプランⅠ (選択)1単位
	・ジョブリサーチ講座 ・コミュニケーション力・日本語力の向上 ・プレゼンテーション力の向上	
1年後期	<b>立ち位置確認・適性把握</b>	キャリアプラン入門Ⅱ (必修)2単位
	・外部講師によるキャリアデザイン体験講座 ・就業力およびコンピテンシーに基づく適正把握やSPIテストの実施 ・自己の将来を視野に入れ学科での勉学方法を考える(ゼミ形式)	
1年前期	<b>大学生生活と人生設計</b>	キャリアプラン入門Ⅰ (必修)2単位
	・初年次講座「大学と社会」・「職業と人生」 ・キャリアデザイン形成講座 ・web版キャリア学習ポートフォリオの作成開始	

アップを図る。また、2年次後期の「キャリアプランⅡ」では、県内外での社会体験や職場見学、先輩(4年生・卒業生)による体験報告とワークショップを通して、企業が学生を見る目やキャリアパスを学ぶ。

3年次前期に開講される「後期インターンシップ」では、実際に「働くこと」を体験するとともに、専門的知識や技術が企業・自治体等で如何に活用されているかを学ぶ。7～9月にかけて実施される短期学外実習に先立つ事前学習では、社会人としての心構え・マナーを学ぶとともに、汎用的技能として不可欠なICTの技量確認とブラッシュアップに努める。なお、ジョブリサーチ講座や職場見学・インターンシップといった体験学習の実施に際しては、専門科目(座学)との有機的な連携を図る。

3年次後期と4年次前期は学生の就職活動期にあたる。この間は正課外となるが、就職支援センター(全学組織)が実施する就職ガイダンス、各



種セミナー、企業説明会等を活用し、就職活動の実践的なノウハウを身に付ける。これらの正課外活動や就職活動についてもポートフォリオに登録し、将来の「居場所と出番」に活かせるようにする。

学生が自らの進路にもとづいて、学習到達度やキャリアパスを確認できるポートフォリオは4年次後期に完成するが、それは学生の卒業後における社会的・職業的自立の原点となる。

「キャリアプランⅢ」では、ポートフォリオをもとに就職活動体験レポートを作成するとともに、就業力評価アンケートにより社会人・職業人としての資質能力について自己確認させる。また、4年次後期の「キャリアプランⅢ」受講学生が学生インストラクターとして、2年次後期の「キャリアプランⅡ」受講の学生に対して自らのキャリアパスを伝えたとともに、ワークショップによって直接アドバイスを与える。

このような体験報告は4年生にとって改めて自らを見直す絶好の機会となるとともに、2年生にとっても最も身近な就職活動経験者との触れ合いは大きな刺激となる。このようなキャリアデザイン伝承システムにより、就業力向上のためのノウハウが先輩から後輩へと確実に伝えられる。さらに、「ホームカミングデー」制度を活用して、社会人・職業人として自立している卒業生から職場における「居場所と出番」について報告してもらい、社会に巣立つ準備とする。

## 5. Web 版ポートフォリオ

### 5.1. Web 版ポートフォリオの取組内容

ポートフォリオの本来の意味は「紙ばさみ」、あるいは「折りかばん」であり、学習ポートフォリオは正課内外を問わず、対象とする学習過程で得られた資料や、素材をどんどん挟み込み、時系列に一元管理することを意味する。その利点は、学生が自らの「気づき」について、いつでも記録を残しておくことができ、蓄積した履歴を振り返って、現状の再認識と今後の方向性を考える際のよりどころとなる。

1年生には、学習内容や技能の習得状況、社会体験といったキャリアパスを常に振り返ることが

できるよう、将来のライフプランにつながる Web 版ポートフォリオの作成を課す。ポートフォリオは「単立ちプログラム」の進行に応じて設計され、キャリア学習履歴に関する情報のみならず、社会人として必要な基本知識や技能、マナー、ならびに関連するコンピテンシー<sup>5)</sup>（高業績者の行動特性）を自らチェックできる。

総合科学部では2年進級時のコース分属に際し、「キャリアプラン入門」科目や Web 版ポートフォリオは、自らのキャリアデザインにもとづくコース選択にも有用なプログラムとなる。

1年次終了までに各自の基本的な適性の把握がなされ、それに基づいてコース選択(総合科学部)や2年次以降における専門科目の履修が行われる。基本的に、総合科学部・工学部では『履修の手引き』や学部ホームページに掲載したシラバスを参考にしながら、学生自らが描くキャリアデザインにあった進路・履修計画を主体的に選択できる仕組みになっている。

併せて、両学部の指導教員はポートフォリオ等を参照しつつ個々の学生の学習履歴・キャリアデザインに応じた指導・助言を行うことが可能となる。したがって、近年増えつつある潜在的な要支援学生に対しても、これまで以上にきめ細やかな指導が期待される。

### 5.2. 初年次 Web 版ポートフォリオの活用

初年次のキャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱでは「キャリア学習ポートフォリオシステム構成」(図2)のうち、「キャリアデザイン」および「学習記録」の利用を開始している。

キャリアプラン入門Ⅰでは、職場や社会の中で多様な人々と仕事をし、社会人として活躍する上で必要とされる社会人基礎力<sup>6)</sup>について、自己評価によるポートフォリオへの入力を義務づけている。この際の社会人基礎力評価値は、授業やその際実施している「社会人基礎力評価テスト」を参考に行っている。

ポートフォリオの社会人基礎力では、自己評価による入力データをレーダーチャートで表すことができ、本学が実施した「全国の企業・団体のアンケート調査」(2010年9月徳島大学が実施)の

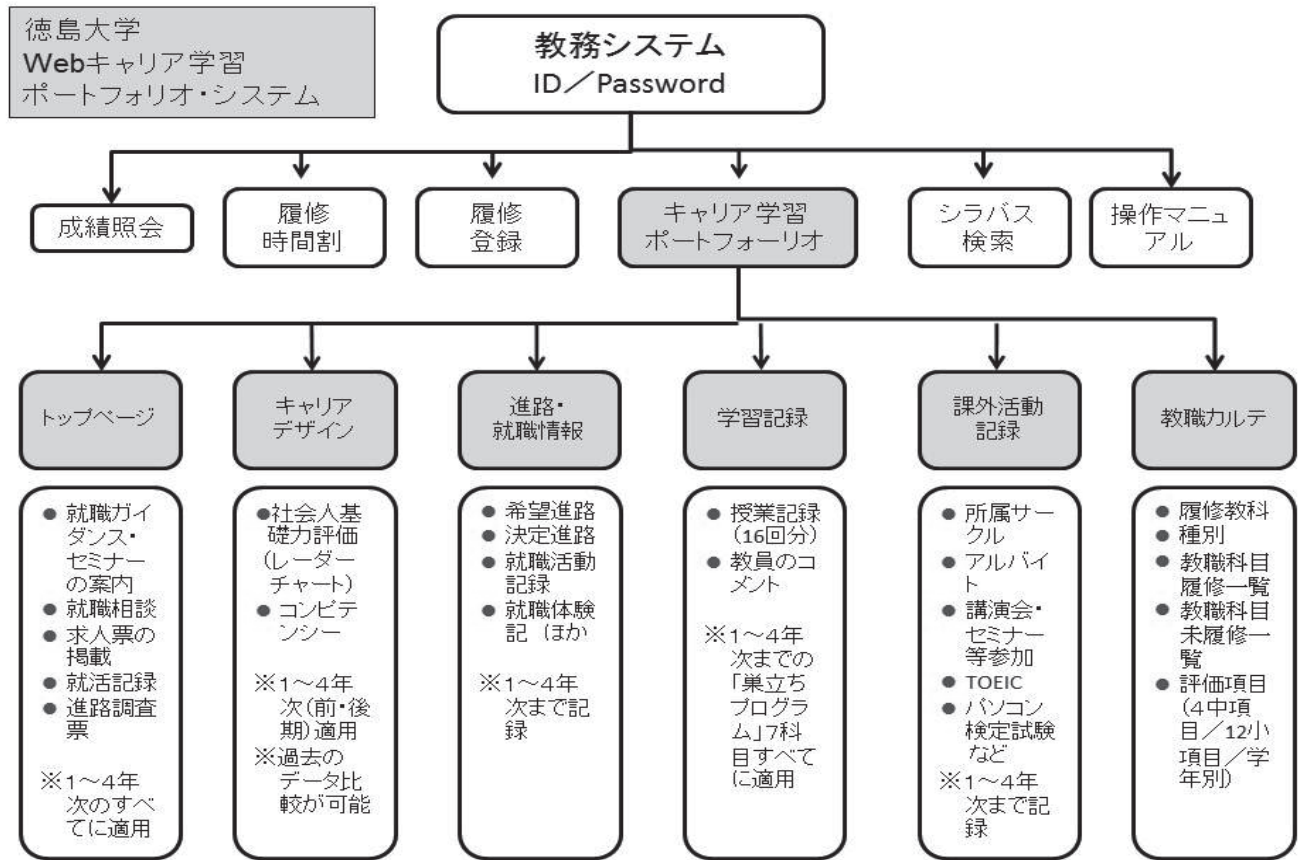


図2 キャリア学習ポートフォリオシステム構成

結果と比較することもできる。さらに、レーダーチャートを使って企業・団体別や業種別との比較により、現在不足している能力を知ること、将来の目標をより明確にすることができる。また、定期的にデータを更新することで、過去のデータと比較し、求められる能力の変化を確認することもできる仕組みになっている。

「学習記録」は講義の記録やレポート提出を目的としており、各々16回分(授業は15回)の「授業コメント」・「レポートコメント」から構成されている。

キャリアプラン入門Ⅰでは、ポートフォリオの機能を理解し活用を促す目的で各授業に取り入れている。総合科学部においては、課題レポートの提出に「レポートコメント」欄を使用し、工学部では講義後毎回、「授業コメント」欄へ授業を通して気づいたことや、感じたことを200文字程度にまとめ、1週間以内に入力することを義務づけている。

キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱでは今のところ「進路・就職情報」、「課外活動記録」への入力が行っていないが、2年次以降に予定しているキャリアプランⅠ～Ⅲならびに短期インターンシップ等において順次活用し内容の充実を図ってゆきたい。

6. 2011年度におけるキャリア教育の実践

6.1. 授業計画(キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ)

2011年度の総合科学部と工学部の授業計画(キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ)を表2、表3に示す。

i) キャリアプラン入門Ⅰ(前期)

**総合科学部**：学部を取り巻く社会環境および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し、有意義な学生生活を構築するとともに、将来の就職について考えるうえで必要な素養と能力を養うことを目的としている。前半では、ガイダンスおよび大学・学部・学習方法について講義し、後半は社会人基礎力や、社会で求められる人間像について講義をする。

表2 キャリアプラン入門Ⅰ授業計画

	総合科学部	工学部
1	授業の進め方について	ガイダンス
2	総合科学部で何を学ぶ	キャリア学習ポートフォリオ利用法
3	大学と地域のコラボレーション	社会人基礎力とは
4	高校と大学での学びの違い	新聞を使って「考え抜く力」を養う
5	読書と人生	ビジネスコミュニケーション
6	レポートの書き方	技術者の倫理
7	社会人になるということ	技術者と企業
8	巣立ちプログラムとは	企業と使命
9	キャリア学習ポートフォリオ利用法	社会の仕組み
10	求められる社会人基礎力	企業を取り巻く環境の変化①
11	ビジネスコミュニケーション	企業を取り巻く環境の変化②
12	ネットワークと大学	企業とその戦略
13	地域産業と職業	技術者として先輩の話を聞く
14	大学と企業 次代の若者へ	技術者として自らの夢を語る
15	全体のまとめ(総括授業)	技術者としてのライフプランの作成

表3 キャリアプラン入門Ⅱ授業計画

	総合科学部	工学部
1	ガイダンス	ガイダンス
2	適性把握演習(試験)	いろいろな職業・業種
3	キャリアプラン体験講座①	経済新聞の読み方
4	キャリアプラン体験講座②	適性・基礎学力演習①
5	キャリアプラン作成実習	適性・基礎学力演習②
6	適性把握演習(解説)	適性・基礎学力演習③
7	コンピテンシーの意義・考え方	適性・基礎学力演習④
8	個別ゼミ	キャリアプラン・ライフプラン
9	個別ゼミ	キャリアプラン体験講座①
10	個別ゼミ	キャリアプラン体験講座②
11	個別ゼミ	新聞から会社の実力を知る
12	個別ゼミ	新聞から会社の戦略を知る
13	個別ゼミ	各職種のコピテンシー
14	個別ゼミ	ポートフォリオのコピテンシー設定
15	個別ゼミ	総括/2年次以降の説明

**工学部**：技術者を取り巻く社会環境について講義し、技術者を目指す新入学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに、将来の職業について考えるうえで必要な素養と能力を養うことを目的とした内容となっている。特に後半では、企業・団体に外部講師を依頼し、「企業を取り巻く環境の変化」・「企業とその戦略」など、多くの情報や知識を学ぶ講義を取り入れた。

ii) キャリアプラン入門Ⅱ (後期)

**総合科学部**：前半のキャリアプランの合同講義(1回～7回)では、適性把握演習にもとづいて、自らの適性を能力・性格などの総合的な観点から診断し、キャリアプランを作成することになっている。さらに、コンピテンシーの意義・考え方について学び、各自が必要と思われるコンピテンシー項目をポートフォリオへ入力することを義務づけている。後半は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で実施される。

**工学部**：いろいろな職業・職種を学び、次いで各自の適性・基礎学力演習により現時点における能力把握を行う。次いで、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点を学び、自らのキャリアプランの作成を行う。さらに「企業を取り巻く環境の変化」をより実践的に読み取る力を養うために、経済新聞を教材にして、「経済新聞の読

み方」から「新聞から会社の実力を知る」、「新聞から会社の戦略を知る」へと授業を展開する。

このような授業を通して、自らのキャリアデザインをより具体的に展望できる能力を養う。また、コンピテンシーに関しては、各業種で必要とされている能力について学ぶとともに、Web版ポートフォリオへ入力することで、自らの能力を確認する。

6.2. 外部講師(企業・団体)の活用

前述のキャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱでは、学生に将来の職業がより具体的にイメージできるよう多数の企業・団体の外部講師を招聘して、各学科に関連する授業を行っている。(表4参照)

学生にとっては、各学科の持つ専門性と企業が置かれている現状を知るとともに、各企業の戦略ならびに、エンジニアや研究者の職業としての魅力を直接聞くことで、将来に向けて具体的な就職イメージと、職業観を養うことができる。また、早い段階で多くの企業・団体の話を聞くことで、知識の習得だけでなく、次年度以降に予定されているキャリアプランⅠ(2年前期)の「ジョブリサーチ」、キャリアプランⅡ(2年後期)での「社会体験・職場見学」、さらには短期インターンシップ(3年前期)へと、今後の進路選択の拠り所と



表4 協力企業・団体 (講義実施順)

No.	協力企業・団体
1	徳島経済研究所
2	日亜化学工業株式会社
3	四国化工機株式会社
4	徳島県庁
5	株式会社大塚製薬工場
6	大塚製薬株式会社
7	大鵬薬品工業株式会社
8	四国電力株式会社
9	四国建設コンサルタント(株)
10	富田製薬株式会社
11	大塚テクノ株式会社
12	スタンシステム株式会社
13	株式会社姫野組

なる。

企業・団体への講師依頼に際しては図3のフロー図に示すように、本学卒業生の採用企業を基に、各企業に非常勤講師派遣の可能性について電話での確認を行い、協力者リストを作成することから始めた。次に、協力企業に対し、外部講師が担当する授業の予定日時を記載した依頼文書で内容を伝達し、授業が可能な複数の日程を提示してもらい、それを基に原案を作成する方法をとった。

スケジュール変更の申し入れに対しては、事前に複数日程を提示していただくことで、直前の変更への対策とした。時間等の制約の中で外部講師の承認手続きも終え、計画どおりの授業を実施することができた。一方、一部の外部講師から“講義の内容がタイトルと必ずしも一致しない”、“授業中の学生の反応が悪い”等の指摘を頂き、今後の課題も判明した。

多くの企業から「企業を取り巻く環境」や「企業戦略」を直接聞くことは、その効果も大きい。本授業後に学生から提出されたレポートからは、徳島県内に高いシェアを持つ企業が多いこと、また県内には企業規模に関わらず高度な技術を持っている企業が数多く存在することなど、初年次学生にとっての新しい「気づき」や「発見」があることも確認できた。

### 6.3. 大人数授業での実施方法

本授業は総合科学部1クラス(274名)、工学部3クラス(計631名)編成で実施している。

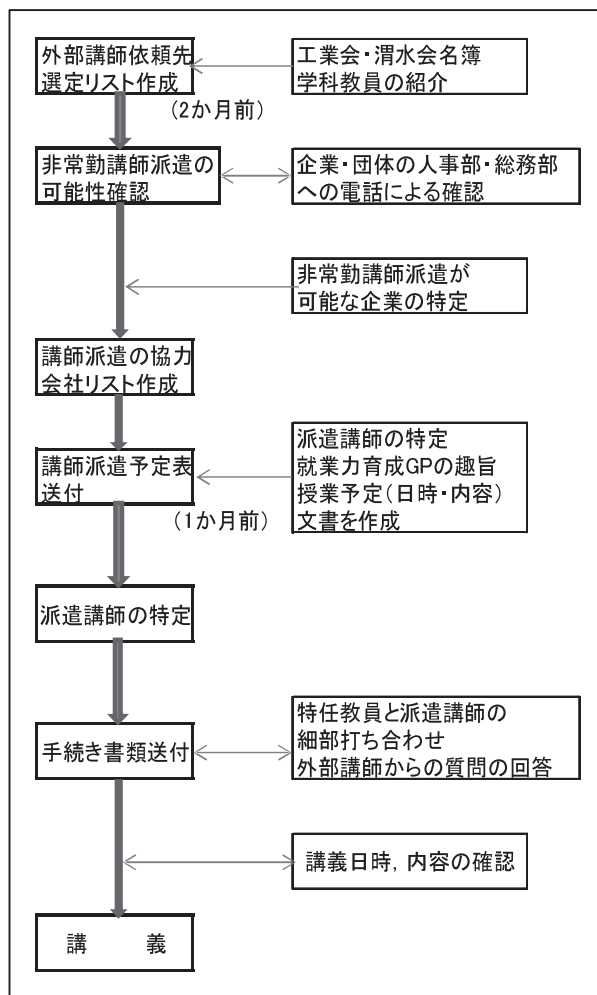


図3 外部講師依頼フロー図

両学部におけるこの科目の授業目的等は同様であるものの、表2および表3に示すように授業の構成等が異なっている。ここでは、全くの新規科目として設定された工学部の授業を対象として説明するが、いずれのクラスも200名を超える大人数授業である。以下にこのような大人数教室での授業における工夫について、出欠確認、授業方法、ならびに成績評価を中心に述べる。

#### i) 出欠確認方法

200名を超える学生の出欠確認において、通常の授業で一般に行われているような、名前を個別に読み上げる方法では、多大な時間を要する。そこで、工学部の3クラスでは初回授業から学籍番号順の座席指定とした。授業開始から20分後に指定した座席の空席をチェックすることで出欠を確認し、20分を過ぎて入室しても、それ以降は欠席とするルールを設定することで効率化を図った。

平成 23 年度前期 工学部「キャリアプラン入門 I」(1 年前期) 平成 23 年 7 月実施

キャリア教育推進室・工学部 F D 委員会

このアンケートは、「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」におけるキャリア教育の授業に関するものです。みなさんが受講した「キャリアプラン入門 I」に関して下記の設問にご回答ください。(該当番号に○印を付してください。) なお、この調査は無記名回答方式で、成績評価には関係しません。

質問 1 貴方が所属する学科は

1 建設 2 機械 3 化学応用 4 生物 5 電気電子 6 知能情報 7 光応用

質問 2 貴方の性別は 1 男 ・ 2 女

質問 3 本授業は、あなたのキャリアデザインや進路(進学・就職)を考える上で役立ちましたか?

1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

質問 4 本授業を通じて、大学での学習目標が明確になりましたか?

1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

質問 5 本授業を受講することで、受講前に比べて、将来の職業や就職活動などに対する不安が小さくなりましたか?

1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

質問 6 社会人基礎力(就業力)の向上は必要と考えますか?

1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

質問 7 今の自分に不足していると思われる社会人基礎力(就業力)を2つまで選んでください。

1 コミュニケーション能力 2 主体性 3 実行力 4 課題発見力 5 創造力 6 柔軟性

質問 8 Web 版ポートフォリオは使いやすかったですか?

1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

質問 9 Web 版ポートフォリオは今後も利活用していこうと考えますか?

1 はい 2 いいえ 3 どちらともいえない

図 4 キャリアプラン入門 I アンケート

最初は戸惑いも見られたが、2 回目以降は徐々に軌道に乗り、出欠確認による授業時間のロスを最小限に抑えることができ、遅刻者も減少した。

**ii) 授業方法**

大人数授業ということで、講義に際しての見やすさは重要なポイントである。このため、学内および外部講師にも理解・協力を得て、パワーポイントによるスライドおよびマイクなどの視聴覚機器を多用した。さらに将来の e ラーニングシステム活用にも対応できるよう、授業風景をハイビジ

ョン映像で記録し、デジタルデータとして保存している。

**iii) 成績評価方法**

成績は、2~3 回のレポートとポートフォリオ中の「授業コメント」の各評価を総合して算出している。学生が入力した授業コメントは、各学科のキャリア教育指導教員がポートフォリオの教員用ポータルから閲覧することができ、出欠状況が記入されている成績一覧表(キャリア教育推進室が作成し送付)に評価点を入力していただくことに



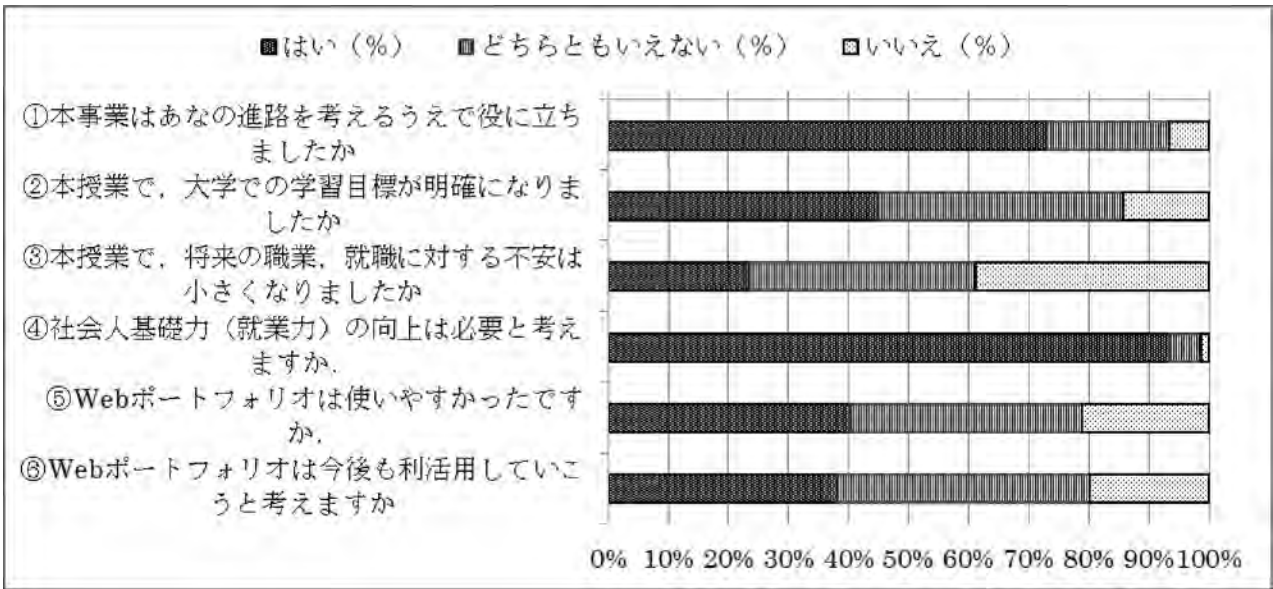


図5 総合科学部アンケート結果 (232人)

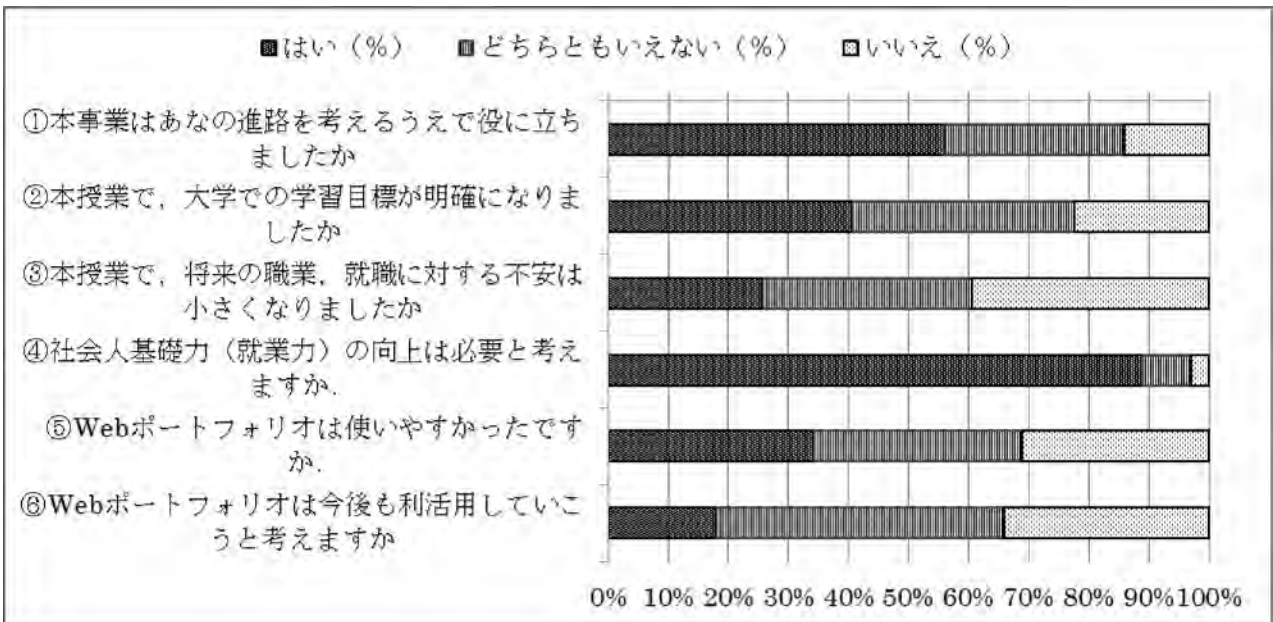


図6 工学部アンケート結果 (594人)

した。このようにポートフォリオを利用して、指導教員が授業コメントを読むことや、出欠状況を確認することで、キャリアデザインの指導・助言だけでなく、潜在的な要支援学生の早期発見にも役立っているものと思われる。

一方、採点に際して、年度当初のポートフォリオではシステム上の制約から、指導教員が大人数分の書き込みを読むために個別のアクセスが必要で、多くの手間と労力を要していた。その後、2, 3の学科からの改善要望を受けて、ポートフォリオの入力データの一覧を、CSV形式でエクセルフ

ァイルに変換し編集することが可能となるよう改良され、レポートの読みやすさは勿論のこと、各学科の採点効率も上がった。

キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱではそれぞれ2~3回のレポートを課し、成績評価に取り入れている。レポートは所定の用紙に記入し提出することになっているが、今後キャリア教育が進むにつれ、クラス数の増加とともに課題レポートなどの提出物は、採点のみならず保管・管理も問題になってくることが予想される。

総合科学部においてはキャリアプラン入門Ⅱの

課題レポートの提出にポートフォリオの「レポートコメント」欄を利用している。その結果、採点のし易さとともに、未提出者の確認、採点後の保管など、多くの点で効率化が図れることが確認できた。

### 7. キャリアプラン入門 I の授業評価

キャリアプラン入門 I の最終回に、総合科学部、工学部それぞれの学生を対象に、アンケート調査(図4)を実施した。回答総数は826人、内訳は総合科学部232人、工学部は594人であった。

図5に総合科学部、図6に工学部のアンケート結果をそれぞれ示す。また、表5にはアンケート結果の一覧表を示す。

表5 No.4より、とりわけ若年層に不足していると言われている「社会人基礎力」の必要性を、総合科学部で93.5%、工学部で88.9%もの学生が感じていることがわかる。

同表 No.3より、将来の職業・就職に関する不安は本授業ではあまり解消されていないことが分かる。これは授業を通して現状を理解することでむしろ職業に関する認識を深めたためと思われる。

同表No.5より分かるように、Web版ポートフォリオの使用性に対する評価は必ずしも高くない。これは、Web版ポートフォリオが現時点では学内からのアクセスに限定されているためであり、将来、外部からのアクセスが可能になれば大幅に改善されるものと思われる。

同表No.6からは、活用面での意識が低いことがわかる。今のところ授業で入力を義務づけているが、ポートフォリオ本来の必要性・利便性は十分理解できているとは言い難く、学生が望む多くの情報を取り込むと同時に、今後、授業内でのポートフォリオの使用頻度を上げる工夫が必要である。

### 8. おわりに

本稿では、2010年度の文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された、本学の「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の概要と、2011年4月から実施しているキャリアプラン入門 I・IIの授業展開について報告した。

本学でのキャリア教育は、各学部・学科で個別

表5 アンケート結果一覧表

No.	質 問	学部	はい	どちらとも	いいえ
			(%)	言えない(%)	(%)
1	本授業はあなたの進路を考える上で役に立ちましたか	総科	73.3	20.3	6.5
		工学	55.9	30.1	14.0
		全体	60.8	27.0	9.7
2	本授業で、大学での学習目標が明確になりましたか	総科	44.8	40.9	14.2
		工学	40.7	36.9	22.4
		全体	41.9	38.5	18.1
3	本授業で、将来の職業、就職に対する不安は小さくなりましたか	総科	23.7	37.5	38.8
		工学	26.1	35.0	39.9
		全体	25.4	36.2	39.4
4	社会人基礎力(就業力)の向上は必要と考えますか	総科	93.5	5.2	1.3
		工学	88.9	8.2	2.9
		全体	90.2	7.3	2.1
5	Web版ポートフォリオは使いやすかったですか	総科	40.1	38.8	21.1
		工学	34.4	34.4	31.2
		全体	36.0	36.2	25.8
6	Web版ポートフォリオは今後も活用していこうと考えますか	総科	37.9	42.2	19.8
		工学	18.2	47.6	34.2
		全体	23.7	45.6	24.5
回答総数826(総科:232 工学:594)					

の実績はあるものの、「巣立ちプログラム」のような必修科目で、1クラスが200名を超える大人数クラスでの授業実績はなく、全くの手探り状態での開始であった。このため、現在1年次の途中段階ではあるが、授業内容、授業の組み立て、ならびに運営等に関する、様々な課題も浮上した。授業後の学生アンケートから、「社会人基礎力の向上」などの社会的自立に向けての努力の必要性は理解できるものの、“何を目標に進めばいいのか”についてはほとんどの学生が不安を持ったままであることが浮き彫りになっている。2年次のジョブリサーチや社会体験では、この点に着目した内容とすることで、一人でも多くの学生が具体的なキャリアデザインを描くことが出来るようにしたい。

一方、学生の自立的な学習活動やキャリアデザインを支援するために開発された Web 版ポートフォリオは、多くの可能性を持ったツールである。この有効性を高めるためには、学生に活用を義務づけると同時に、多くの教職員がポートフォリオを理解し、学生の指導に活用することが不可欠であると思われる。